

平成 30 年 6 月 19 日現在

機関番号：32689

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2017

課題番号：26370713

研究課題名(和文)ドイツ語学習者の語順と冠詞習得における学習環境の影響に関する縦断的研究

研究課題名(英文) Language learning environment and acquisition of the German word order and article system: a longitudinal study

研究代表者

星井 牧子(Hoshii, Makiko)

早稲田大学・法学大学院・教授

研究者番号：90339656

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では日本語を母語とするドイツ語学習者の語順と冠詞の習得について、インタビューによる発話および作文データを用いた調査を行い、1年間のドイツ留学期間中のドイツ語使用の変化とその要因を考察した。定動詞の位置に関しては、主語以外の要素を前域としてもつXVS構造には調査期間を通じて不安定さが残ることから、前域となり得る要素の区別・理解が必要だと考えられる。冠詞使用については、調査期間を通じて冠詞の省略がみられることから、学習者のL1(日本語)が影響していると考えられるが、一般化可能な習得段階よりも個人差の方が大きいと考えられる。

研究成果の概要(英文)：This research investigated how the German word order and article system are learned by Japanese learners of German as a foreign language. Writing and speaking samples produced by university students who learned German at the intermediate level during their one-year study were collected and analysed. Regarding the word order, the XVS structure with the non-subjectable element (X) in the sentence-initial prefield remains unstable even after the subjects have spent a year in Germany. The findings indicate that it is necessary for learners to distinguish between the elements that are eligible for prefield positioning from those that are not. As for as the article system, the omission of articles was observed overall during the research period, which suggests the influence of the learners' L1 (Japanese), an articleless language. Furthermore, the findings suggest that the participants' language production indicates more individual differences than generalisable developmental sequences.

研究分野：外国語教育

キーワード：第二言語習得 学習者言語 文法習得 ドイツ語教育

1. 研究開始当初の背景

(1)ドイツ語の語順および冠詞使用には、統語論的制約の他、語用論的要因やテキストレベルの要因も大きく影響し、学習者にとって習得が難しい文法項目の1つといえる。Processability Theory (PT)によれば、ドイツ語の語順は学習者の母語にかかわらず、「枠構造 (SEP)」 < 「主語と定動詞の倒置 (INV)」 < 「副文における定型後置 (V-END)」の順で習得されるとされ、学習者の母語にかかわらず PT と同様の習得順序が見られるとする研究が多いが、V-END が INV より先に習得されるという結果もあり、学習者がチャンク (chunk) としての使用を離れ、自由に文を構築しはじめると、INV の正確性が下がる可能性も指摘されている。研究代表者が行った作文データを用いた横断的研究では、定動詞の位置に関するエラーの6割は INV で、目標言語圏の滞在期間が長い学習者は V-END よりも INV に関するエラーが多い結果となったことから、定動詞の位置の習得順序には、学習環境によるインプットの影響および発話の認知的複雑さが関与することが考えられる。

(2)冠詞習得、特に定冠詞・不定冠詞・無冠詞の区別も、日本語のように冠詞を持たない言語を母語とする学習者にとっては難しい文法項目で、研究分担者が行った調査では、初学者 (A1~A2 レベル) の場合、定冠詞の過使用がエラーの7割を占めるのに対し、上級者 (B1 以上) では、エラーの7割は冠詞の不使用によるもので、特に形容詞や前置詞句が名詞を意味的に限定する場合に、その傾向が顕著に見られた。学習の段階が上がるにつれて、エラーの量だけでなくタイプも変化すること観察された。

(3)外国語の習得には、母語・学習開始年齢・動機づけ・学習環境等、さまざまな要因が関わっていることが従来の研究から知られているが、教室内の学習環境を離れた目標言語圏への留学も、インプットとアウトプットを質・量ともに大きく変えられ考えられる。日本のドイツ語学習者の多くは、大学の教室環境でドイツ語学習をはじめが、留学による目標言語圏での滞在中の学習者のドイツ語の変化については、短期語学研修前後のドイツ語運用能力の変化を調査した研究が散見されるだけで、1年間の留学が外国語学習に与える影響に関する本格的な調査は国内外を問わずほとんど見られなかった。

2. 研究の目的

(1)本研究では日本語を母語とするドイツ語学習者 (大学生) の留学期間中のドイツ語使用の変化を、発話データと作文データを用いて継続的に調査し、定動詞の位置

と冠詞使用に焦点を当てて考察する。

(2)定動詞の位置と冠詞の習得を規定する要因には、母語の影響、目標言語 (ドイツ語) の統語的・語彙的複雑性、学習者の発話内容の複雑性、インプットからの影響が考えられるが、目標言語圏での滞在期間中における主要な要因を考察する。

(3)目標言語圏における滞在期間中のドイツ語使用を「話す」(発話)と「書く」(作文)の両側面から考察することで、最終的には、教室環境下での文法習得を再考する基盤の構築を目指す。

3. 研究の方法

(1)インタビューによる発話収集:調査対象者となる学習者に対し、留学開始時から留学終了時までの1年間、約2ヶ月に1度のペースでインタビューを実施し、発話データを収集した。インタビューは対面での実施の他、スカイプを利用して行った。1回のインタビューは約15分間。「語り」と「論拠」のタイプの異なる発話を収集し、さらに「語り」においては過去・現在・未来についての語りとなるよう質問を設定した。

(2)作文データの収集:同一の学習者について「話す」能力と「書く」能力の比較を可能にするため、インタビュー後に同じ質問事項についての作文課題を課し、発話データと同時期の作文データを収集した。

(3)言語使用レベルと変化に関する調査:留学前、留学開始6ヶ月後、留学期間終了・帰国後の3回、C-Testとレベルチェック調査を実施した。また、留学開始6ヶ月後および留学期間終了時には、留学期間中のドイツ語使用に関する聴き取り調査も行った。

(4)インタビュー発話データの文字化:インタビューによる発話データは、文字化ソフト EXMARaLDA を用い、転記システム GAT2 にしたがって文字化作業を行った。

4. 研究成果

(1)日本語を母語とするドイツ語学習者言語コーパスの作成:調査期間全体を2期に分け、第1期はA2+~B1レベルの学習者7名(平成26年7月~27年9月)、第2期はB2+レベルの学習者2名(平成27年7月~28年7月)に対して調査を実施した。収集したインタビュー音声は計77データ(第1期:7名x9回、第2期:2名x7回)、作文データは計43データ(第1期:33データ、第2期:10データ)。冠詞習得に関しては、他にインタビュー28データがある。文字化済みの発話データおよび作文データは、Excelファイルに変換し、分析の基盤となる学習者言語コーパスを作成した。

(2) 定動詞の位置・語順習得に関する分析：発話データでは前域での副詞句および前置詞句使用(XVS 構造)の増加が見られた。ただし V-END 段階に到達していても、*XVS(XSV および doppelte Vorfelddbesetzung)が残る場合もあれば、逆に増える場合もある。留学期間を通じて、副詞をはじめとする主語以外の要素が前域を占める割合が増える傾向もあるが、前域の長さ XVS 構造の適切さは必ずしも関係しない。前域が 1 語の場合にも XVS 構造の実現には揺れがあり、XVS 構造は前域における多様性から習得に時間がかかることが考えられる。作文データでは主語や副詞など短い前域の増加が見られることから、話しことば性が反映されていると考えられる。定動詞の位置に関する適切な使用という観点からは、学習者にとっては主語以外の要素が前域を占める構造(XVS)のほうが定型後置よりも難しく、適切な使用のためには、何が動詞前域となり得るかを区別・理解することが必要だと考えられる。特に XVS 構造については一定期間(しかも長期にわたり)エラーが出現することから、PT での「処理可能」と「適切な使用」との間には一定の距離があり、前域要素との関係から考察することが必要だと考えられる。ただし、学習者の発話における「適切な使用」において、話しことば規範をどのように扱うかについてはさらなる検討が必要である。また学習者の L1 である日本語の接続詞や談話標識の使用との関係についても、今後の考察が必要となる

(3) 冠詞習得に関する分析：冠詞使用と定動詞の位置に関する正確さは比例するが、どの学習者にも冠詞の省略傾向があり、特に統語的に複雑な構造で冠詞使用に揺れがあった。冠詞省略には明確な使用条件が見られないことから、学習者の L1(日本語)の影響と考えられる。学習者間の相違はコミュニケーションストラテジーの使用などの個人差によると考えられる。

(4) 教科書の分析：初学者向け教材において、定動詞の位置および冠詞の使用がどのように説明されているかについての調査を行った。

(5) 調査結果の報告：国際ドイツ語教員大会(IDT)2017(スイス・フリブール、2017年7月)、ドイツ外国語教育学会(DGFF)2018(ドイツ・イエナ、2017年9月)、ウィーン大学外国語教育シンポジウム(オーストリア・ウィーン、2017年12月)、日本独文学会第23回ドイツ語教授法ゼミナール(葉山、2018年3月)で研究報告を行った。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者に

は下線)

[雑誌論文](計 1 件)

Lipsky, Angela. Die Vermittlung der Artikelfunktionen in DaF-Lehrwerken: Wie berücksichtigen deutsche und japanische Anfängerlehrwerke die Zielgruppe der Lernenden mit artikelloser Erstsprache? *Info DaF* 43, pp. 647-666, 2016 年.

[学会発表](計 9 件)

Hoshii, Makiko. Entwicklung syntaktischer Strukturen in der gesprochenen Lerner Sprache im Deutschen als Fremdsprache – Fokus auf die Verbstellung und Vorfelddbesetzung. 日本独文学会第 23 回ドイツ語教授法ゼミナール(葉山), 2018 年 3 月 22 日.

Hoshii, Makiko Zum Zusammenspiel von Vorfelddbesetzung und Verbstellung im Erwerb des Deutschen als Fremdsprache. Symposium „Junge Fremdsprachenforschung an der Universität Wien“, ウィーン大学(オーストリア), 2017 年 12 月 11 日.

Hoshii, Makiko & Schumacher, Nicole. Lenersprachliche Entwicklung während eines Auslandsstudiums – Zum Zusammenspiel von Vorfelddbesetzung und Verbstellung im Erwerb des Deutschen als Fremdsprache. 27. Kongress der Deutschen Gesellschaft für Fremdsprachenforschung (DGFF), Sektion 10, イエナ大学(ドイツ), 2017 年 9 月 28 日.

Hoshii, Makiko & Schumacher, Nicole. Zum Zusammenhang von Verbstellung und Vorfelddbesetzung in der lernersprachlichen Entwicklung. Eine Studie mit japanischen Deutschlernenden während eines Studienaufenthalts in Deutschland. Internationale Deutschlehrertagung (IDT) 2017, Sektion B1, フリブール大学(スイス), 2017 年 8 月 3 日.

Lipsky, Angela. Der Artikel als besonderer Herausforderung für japanische Deutschlernende? – Ergebnisse einer Studie zur lernersprachlichen Entwicklung im Bereich der Artikel und Nominalphrasen. Internationale Deutschlehrertagung (IDT) 2017, Sektion B1, フリブール大学(スイス), 2017 年 8 月 3 日.

Hoshii, Makiko. Schwierigkeiten bei

der Analyse der Verbstellung in mündlichen Äußerungen – am Beispiel “also” und “dann”. Workshop „Wortstellung in Lernervarietäten“. ベルリン・フンボルト大学 ドイツ言語学研究所, 2015年3月9日～10日.

星井 牧子. 日本語を母語とするドイツ語学習者の語順習得 – 処理可能性理論と発話の複雑性から. 日本独文学会秋季研究発表会, 京都府立大学, 2014年10月11日.

Hoshii, Makiko. Verbendstellung vor Inversion? Erwerb der Verbstellung in der schriftlichen und mündlichen Produktion von japanischen Deutschlernern. GAL Kongress 2014. マールブルク大学, 2014年9月17日.

Lipsky, Angela. Artikelsetzung bei fortgeschrittenen japanischen Deutschlernern: Eine Untersuchung zu Gemeinsamkeiten und individueller Variabilität in Lernersprachen. GAL Kongress 2014. マールブルク大学, 2014年9月17日.

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕

出願状況 (計 0 件)

取得状況 (計 0 件)

〔その他〕

ホームページ等

(1) Karin Aguado 教授 (カッセル大学) を招聘し、データ分析に関する意見交換を行う他、科研企画で2件の講演会を開催し、講師及び参加者と学習者言語の分析に関する意見交換を行った。

講演 1 「Deutsch als Fremdsprache – Geschichte, Spezifika, aktuelle Entwicklungen」(2016年4月2日、早稲田大学)

講演 2 「Deutsch sprechen lernen. Automatisierung durch erfolgsorientierte Lerneraktivierung」(2016年4月7日、獨協大学)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

星井 牧子 (HOSHII, Makiko)
早稲田大学・法学学術院・教授
研究者番号: 90339656

(2) 研究分担者

リプスキ アンゲラ (LIPSKY, Angela)
上智大学・外国語学部・教授

研究者番号: 90348194

(3) 連携研究者

()

研究者番号:

(4) 研究協力者

シューマッハー ニコル (SCHUMACHER, Nicole) ベルリン・フンボルト大学 (ドイツ)